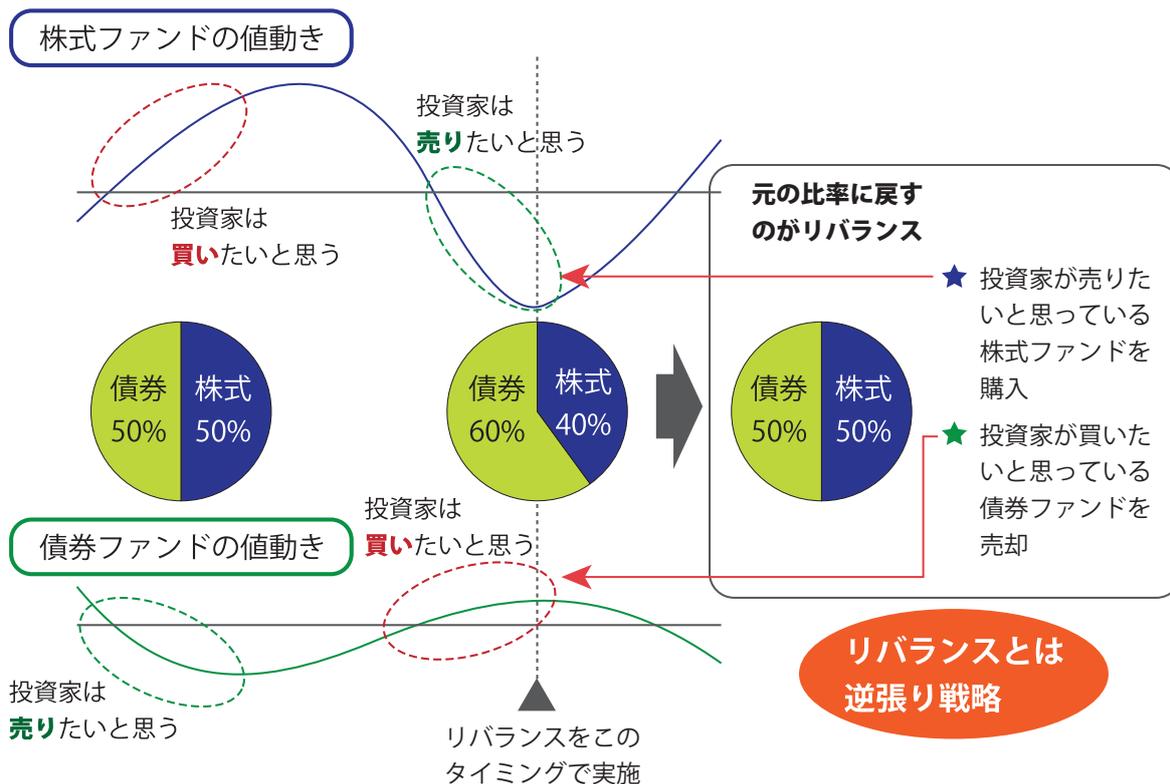


## 2.15 リバランスの実践

リバランスとは投資効率を向上させる逆張り戦略

ポートフォリオの投資比率を当初決めておいた比率に戻すことをリバランスといいます。リバランスは逆張り戦略です。そして、よく知られたドルコスト平均法も逆張り戦略です。逆張り戦略を上手に使うと、買付単価を引き下げ、投資効率を向上させることができます。

図 2.13 リバランスのしくみ



### 2.15.1 ポートフォリオのリバランスは逆張り戦略

ポートフォリオのリスク水準等の確認が終了したら、ポートフォリオをリバランスしましょう。リバランスとは、バランスを元に戻すことです。

実際のポートフォリオの資産クラスへの投資比率を、あらかじめ決めておいた比率に戻す作業です。実に簡単な作業ですが、リバランスには「逆張り戦略」という意味も含まれています。図で示すように、株式と債券の割合を等分にする配分を考えてみましょう。株式の割合が低下するときは、株価が下がっているときです。安くなった株式を買い増すということですから、人気の低いものに投資する逆張り戦略というわけです。

### 2.15.2 ドルコスト平均法も逆張り戦略

株式と債券の値動きが図のように一方が下がり、一方が上がるという図2.14の例のような状態が繰り返されるとしたら、逆張り戦略は有効です。安いところで追加投資を繰り返すわけですから、トータルで考えると、安い価格で資産を購入できているという仕組みです。

実は、逆張り戦略になっているという点で、リバランスはドルコスト平均法と同じ効果があります。ドルコスト平均法も、リスクのある資産の値動きにかかわらず、同じ金額を投資することによって、平均買付単価を引き下げるという効果を持っています。したがって、保有しているリスク資産にはリバランスを適用し、購入する資金についてはドルコスト平均法を適用すれば、逆張り戦略を強化することができます。

### 2.15.3 バランス型ファンドも逆張り戦略

自分でリバランスすることが面倒であると感じるのであれば、バランス型ファンドに投資するとよいでしょう。バランス型ファンドであれば、ファンドマネージャーが投資家に代わってリバランスを行ってくれます。ファンド全体でリバランスを行うことになりますから、規模も大きくコスト面から考えても合理的といえます。バランス型ファンドをドルコスト平均法で買い続けることは、逆張り戦略を追求していることにもなっています。